

aaa	財務面から見た信用力は最も高い
aa	財務面から見た信用力は非常に高い
a	財務面から見た信用力は高い
bbb	財務面から見て、信用力は十分認められる
bb	財務面から見て、一定の信用力は認められるが、十分とは言えない
b	財務面から見た信用力は乏しく、懸念される要素がある
ccc	財務面から見て、強く懸念される要素があり、破綻に陥る危険性がある
cc	財務面から見れば、破綻に陥る危険性が高い
c	財務面から見れば、破綻に陥る危険性が極めて高い

中堅・中小企業格付け

廃棄物ビジネスでも注目

不況下で信用力担保が不可欠に

廃棄物ビジネスでも信頼性、信用力向上に向けて格付けや評価制度などの重要性が高まっている。廃棄物処理業を評価する制度としては国の優良性評価制度や東京都の第三者評価制度などがあり、東京都の制度は多くの処理業者が認定を受けている。さらに踏み込んだ、全業種を対象にした格付け機関による格付けに注目する企業も徐々に出てきているが、不況による収益の伸び悩みなどもありなかなかハードルは高い。そんな中、従来から日本格付研究所（JCR）の中堅・中小企業格付けで「a」を獲得していたフジコーポレーション（長野県佐久市）が、今年度の更新で「aa」に昇格した。a aの公表はJCRでは初めてのことだ。

JCAなどが実施している従来の格付けは主に大企業を対象にしており、公社債等に係る元利金支払いの確実性や、その発行体の信用力（借入金返済能力）を最高のAAA（トリプル・エー）、債務不履行または破綻を意味するD（ディ）といった記号で表している。従来の格付けを取得するには会計監査や会計基準に準拠した財務諸表の作成、中期経営計画など経営計画書類の提

出およびそのための社内整備などが必要で、その結果膨大な手間と費用がかかることから、中堅・中小企業には馴染みにくいものだった。そこで開発された信用力評価サービスが「中堅・中小企業向け格付け」だ。現在日本には金融庁の認可を受けた格付け機関が外資を含め5社あるが、このうち3社が中小企業向けの格付けを実施している。

JCRの中堅・中小企業向け格付けは、独自に開発した信用リスクモデルJCRESTを評価エンジンとし、中堅・中小企業の財務および倒産に関する同社の知見に基づく数理ロジックによって、統計的に信用力評価を行う。中堅・中小企業が、会計処理や情報開示その他、特段の社内体制整備を要せずに取得することができる。

大企業向けで行うインタビューや会社訪問、工場の実査などは行わず、格付けランクごとの3年後の平均推定倒産確率が示されているが、aaは0.133%と極めて低い。aaの企業は、10万社中9万9867社が3年後にも存続しているという推計だ。

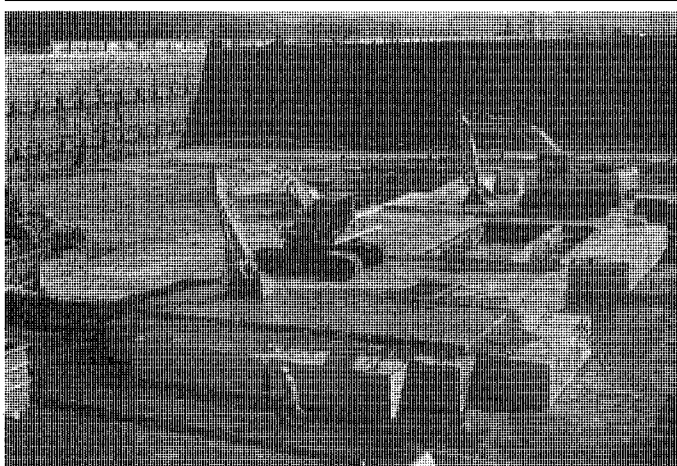
JCRでは2007年から中堅・中小企業向け格付けを実施しているが、リーマンショック以降の経済不況の影響で中堅・中小企業は厳しい経営状況が続いており、一定の評価を受けて公表される企業はまだまだわずか。その中で、全業種で初め



「aa」の認定書

てaaを取得して公表されたのがフジコーポレーションとなった。

同社の格付けがaaとなったことについてJCR中堅・中小企業格付室長の山本昇治氏は、「借り入れを返済して無借金経営となってからの期間が長くなった上、不況下でも安定して高い収益力を保っているのが高評価となった」と話す。また、最高位のaaaへの昇格についても、「将来的には不可能ではないだろう」とする。



フジコーポレーションの直壁型最終処分場

フジコーポレーションは独自の直壁型最終処分場を運営しており、自治体からの廃棄物を多く受け入れている。山口藤吉郎会長は、「自治体は信用力のあるところに廃棄物を委託すべきだ。委託先が経営破たんした場合、地元にも多大な迷惑をかけることになる」と話す。今後は廃棄物の委託先にとり格付けや評価を求める自治体や企業が増えることも予想される。中堅・中小企業格付けなどの制度が、廃棄物業界にどこまで浸透していくかも注目される。

フジコーポレーションが「aa」を取得